第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜金　賞＞

部門	企業名	選定理由
投資家部門 （アセットオーナー）	日本生命保険	PRI in Personにてリードスポンサーを務めるなど、日本のアセットオーナーとしてのリーダーシップを発揮し、ESG市場の発展に取り組む姿勢が高く評価された。また、投融資先から最終受益者まで含めたインベストメントチェーン全体に向けたエンゲージメントやインパクトの開示を高いレベルで行っていることや、全資産クラスへのESGレーティング/ポジティブスクリーニングなどの新たな施策にも注力し、更なる市場への波及力を発揮していることも評価された。
間接金融部門	静岡銀行	個別企業に対するポジティブ・インパクト・ファイナンスへの取組および静岡県信用保証協会との連携スキームによる、地域社会へのインパクト創出というこれまでの取組の成果が結実し、更なる活動に繋がる好循環を生み出していることが確認できた。GHG排出量算定ツール「しずおかGXサポート」の無償提供（1つのID利用が無料）を起点として、自治体および地域金融機関との連携による地域エコシステムの構築に向けて意欲的に取り組んでいる点が高く評価された。
	三菱UFJ銀行	トランジション・ファイナンスの推進にコミットし、国内外で非常に高いレベルの取組を展開しており、ESGファイナンス市場全体の発展に貢献している。また、MUFGトランジション白書の発行や、NZBA（Net-Zero Banking Alliance）、ATFSG（Asia Transition Finance Study Group）等、国際イニシアティブへの参画を通じ、グローバルな観点の情報共有を行うことで、日本およびアジアにおいて、環境に根差した資金調達の枠組みを構築することに注力している点が高く評価された。
金融サービス部門 （証券部門）	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	全社的なESG推進体制を継続強化しており、海外評価機関の視点も含めた充実した情報を発行体・投資家双方に積極的に提供するなど、ESGファイナンス市場における透明性・実効性の向上に貢献している。また、GHG多排出セクター以外の企業における初のトランジションラベルを用いたファイナンス支援が先駆的であることや、MUFGや米モルガン・スタンレーとの連携により、機動的なファイナンス手段を発行体に提供していることが高く評価された。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜金　賞＞

部門	企業名	選定理由
環境サステナブル企業部門	キリンホールディングス	「生物資源」「水資源」「容器包装」「気候変動」の4つのテーマに統合的にアプローチし、TCFD/TNFD統合に繋げている点は、非常に明快である。詳細な分析、的を射た取組、実効性を担保する開示姿勢、外部評価機関のESGスコアと財務パフォーマンスの関係性の検証に着手する等の新たな取組を進めていること等は、ベストプラクティスと呼ぶにふさわしい。「統合的アプローチ」を強みとし、技術とサステナビリティを融合させている点も評価された。
	住友林業	森と木に拘った企業としてのあるべき姿を長期的な事業構想に落とし込んだ独自性のある長期ビジョン「Mission TREEING 2030」を掲げることにより、環境対応と企業価値向上の両立に誠実且つ愚直に取り組んでいる点を高く評価する。また、森や木の価値向上、森林資源を活かしたカーボンニュートラルやサーキュラーバイオエコノミーの実現を重要課題と位置付けて、明確に焦点を絞ったうえで環境課題解決に積極的に取り組んでいる点が評価された。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜銀　賞＞

部門	企業名	選定理由
投資家部門 （アセットマネージャー）	ニッセイアセットマネジメント	人材戦略やESGファイナンスの高度化に対する俯瞰した考えを持ち、着実に取組を進展させている点や、GHG排出量の大きな企業とともに、それらのトランジションを技術的にサポートするイノベーティブな企業に投資を行うなど、ネットゼロ達成に向けた効果的な取組を実施している点が評価された。今後、生物多様性を含めた他の環境問題等への取組も推進されることが期待され、銀賞となった。
投資家部門 （アセットマネージャー）	ロベコ・ジャパン	「サステナブル投資（SI）オープンアクセス・イニシアティブ」を通じて独自のサステナブル投資の知的財産（SDGsスコア等）の公開を行い、世界的に環境課題の解決に取り組んでおり、生物多様性・人権等のテーマにも先導的な役割を果たしている。また、「セクター別脱炭素化経路（SDP）」の導入は、今後のトランジションファイナンスの在り方に影響を与える取組として高く評価された。今後、グローバルな取組に基づいた日本での取組の拡大やESG関連ファンドの更なる規模拡大が期待され、銀賞となった。
間接金融部門	滋賀銀行	「スーパー住宅ローン 未来よし」の販売が地域の工務店等への好影響を生み出しており、地域の個人分野での脱炭素化の進展に寄与している。また、中小企業向けのファイナンス・フレームワーク作成やCO2排出量算出・管理サービスの開発など、新規性のある取組を打ち出しつつ、従来の取組も高いレベルで維持されていることが高く評価された。現在取り組んでいる新たな施策による地域の脱炭素化の進展が期待され、銀賞となった。
間接金融部門	三井住友銀行	重点課題として掲げる「環境」の具体的な目標として、トランジション支援と自然資本の保全・回復を挙げ、メリハリのある取組を実行している。また、自然資本に関する取組においてTNFD（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures）開示に先駆的に取り組み、マネタイズを視野に入れたアライアンス形成を行っている点が評価された。今後、国際的な活動に対する更なる存在感の発揮が期待され、銀賞となった。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜銀　賞＞

部門	企業名	選定理由
資金調達者部門	岩手県	財政課の主導の下、気候変動の緩和と適応双方の観点から県内で強化すべき分野を包括的に検討した点や、まだ国際基準が明確になりきっていないブルーボンドの分野を資金使途に入れることにチャレンジした点が評価された。さらに、グリーン/ブルーボンドの発行意義を伝えながら県内の投資家開拓につなげていった点も高く評価された。今後、ネイチャーポジティブの観点も含め、農業等への資金使途の拡大などの展開も期待され、銀賞となった。
	東日本旅客鉄道	低炭素の移動手段と言われる鉄道分野において、鉄道インフラそのものの脱炭素化を見据えた自社戦略を明確に定め、長期的な設備資金ニーズを前提に新規性のある資金調達フレームワークを構築している。また、気候変動緩和だけでなく適応面でもアクションを進めていることや、外債での資金調達に際してEUタクソノミー基準への適合性について自主的に検証を受けるなど、投資家目線の取組が先駆的と評価された。TNFD（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures）やScope3削減への今後の取組進展が期待され、銀賞となった。
	芙蓉総合リース	CSV（Creating Shared Value）経営を実践する方針を明確にし、サステナビリティから事業価値を創出する動きを経営トップ自らが主導しながら、顧客層の拡大や新たな営業機会につなげている。さらに、自社だけでなく他の金融機関との連携を広げ、業界全体の動きにまでつなげた点が高く評価された。今後、提供されていくリース商品の幅が増えていくことも期待され、銀賞となった。
金融サービス部門（証券部門）	大和証券	インパクトスタートアップ企業の開拓や、グリーンテクノロジーに係る研究をインパクトの説明に組み込んだSDGs大学債、ならびに世界初のトランジション国債となる我が国のGX経済移行債の組成支援を行うなど、新規性のある取組を通じてESGファイナンス市場の拡大に貢献している。また、発行体がサステナビリティ・リンク・ボンドやトランジションファイナンスに取り組む際に、それらの目標設定や戦略策定の観点にScope３を組み込むよう、積極的に働きかけを行っている点も評価された。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜銀　賞＞

部門	企業名	選定理由
環境サステナブル企業部門	アサヒグループホールディングス	グループガバナンスの強化と企業価値の最大化に向けた執行体制の刷新や、シンガポールへの調達機能の集約化、バリューチェーン全体における脱炭素目標の達成年前倒しなど、サステナビリティ経営を一段とアップする体制・制度面での進捗が高く評価された。また、環境課題解決に向けたトップの理解やコミットメントに深さがあり、高いレベルでのサステナビリティ推進を継続的に行っている。今後は広範なステークホルダーエンゲージメントの更なる進捗・情報開示を期待したい。
	セイコーエプソン	パーパス「『省・小・精』から生み出す価値で、人と地球を豊かに彩る」の制定、長期ビジョンである「Epson 25 Renewed」を踏まえた、社会課題を起点とするマテリアリティの見直し、各マテリアリティに対応したKPIの設定の完了など、サステナビリティ経営に関する仕組みや体制の整備が着実に進捗している点が評価された。今後は新たな環境ビジネスの立ち上げを軌道に乗せ、さらなる環境貢献と企業価値向上につなげていくことに期待したい。
	大和ハウス工業	環境長期ビジョンにおいて4つの重点テーマを掲げると共に、7つの重要な目標をチャレンジ・ゼロとして設定し、2030年のマイルストーンを明確に示したうえで取組を加速させている点が評価された。戦略投資にカーボンニュートラル実現への投資を盛り込み、投資判断基準にインターナルカーボンプライシング（ICP）の導入を推進するなど、目標達成に向けた戦略を推進している。今後は生物多様性など他の環境課題への対応も含め、一層の行動の進化に期待したい。
	三菱マテリアル	「中期経営戦略2030」の策定に合わせて定めた「人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する」という同社の「私たちの目指す姿」により、同社が事業を通じて創出を目指す地球環境への価値が、これまで以上に明確化され、マテリアリティにもメリハリがつけられた点が評価された。今後はマテリアリティに関して、重点4テーマ以外の項目について、更なる整理が行われた上で開示されることを期待したい。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜銅　賞＞

部門	企業名	選定理由
投資家部門 （アセットオーナー）	明治安田生命保険	全ての運用資産の投融資プロセスへESG投融資手法を組み込み、高度化を推進している。脱炭素のみならず、生物多様性や地方創生など多様な観点での取組を実践している点が評価された。中期経営計画では更なるサステナブルファイナンスの拡大が掲げられており、意欲的な姿勢が確認できた。今後、こうした一連の取組を通底する戦略や方針の提示が期待され、銅賞となった。
投資家部門 （アセットマネージャー）	大和アセットマネジメント／ カンドリアム・エス・シー・エー	海外の運用会社であるカンドリアム・エス・シー・エーから助言を受けて運用している、GHGを削減し気候変動の緩和に資する企業に投資を行うESGファンド「カーボンZERO」のコンセプトが明確で、かつ信託期間が2050年までと長期投資であり社会的意義がある。また、両社の連携ではそれぞれの強みを最大限に生かそうとする工夫がある。さらに、発行しているインパクトレポートは国内の個人投資家にもESG投資への参加を促す内容で、市場の拡大に貢献する姿勢が明確である点が評価された。今後、カンドリアム・エス・シー・エーとの更なるシナジー効果の発現が期待され、銅賞となった。
間接金融部門	福岡銀行	独自のSDGs評価モデル「Sustainable Scale Index」を起点としたエンゲージメントの高度化や、取引先の優先課題への具体的な取組支援を昨年度から進展させた点が評価された。今後、エンゲージメントにて得られる地域課題やESGの観点を踏まえた、銀行としての新たな機軸での施策の展開や地域社会・取引先への波及が期待され、銅賞となった。
資金調達者部門	オリックス不動産 投資法人	サステナブルファイナンスによる調達比率を2030年3月末に50%以上とする野心的な目標を定め、SPT（Sustainability Performance Target）として設定したGHG排出量削減の実現に向け、アクションプランを「移行ロードマップ」として策定している。また、アクションプランではテナントを巻き込んだ施策を展開し、関係するサプライチェーン・バリューチェーンの脱炭素に貢献する姿勢が評価された。今後、Scope3、特にエンボディド・カーボン削減への取組拡大が期待され、銅賞となった。
	東京ガス	本邦初のトランジションボンド形式の公募型ハイブリッド社債を発行した。カーボンニュートラルに向けた本格的な戦略を策定した上で、将来のイノベーションを支える資金として資本性が認められるハイブリッドファイナンスを選択した点に新規性があり、トランジションファイナンスの発展に向けて有意義なモデルであると評価された。今後、インパクト創出に関するより具体的な計画の立案が期待され、銅賞となった。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜銅　賞＞

部門	企業名	選定理由
金融サービス部門（証券部門）	野村證券	ストラクチャリングエージェントとして、共同発行形式の枠組みを活用したスキーム構築のサポートを通じて、個別での発行が困難な複数の地方公共団体に対してグリーンボンド発行を可能にしたことにより、ESG市場の拡大に貢献していると評価された。また、社内のナレッジを集約し、プロダクトの多様化に対応すべくサステナブル・ファイナンス部を設立し、ESG関連ビジネスの戦略・企画を行うなど体制構築にも注力している。今後、発行体への働きかけによる更なるインパクトの創出が期待され、銅賞となった。
	みずほ証券	発行体への経営戦略への関与を強化する姿勢が顕著であり、実現に向けた体制構築を行っている。また、本邦初となるインパクト預金とポジティブインパクトファイナンスを組み合わせたスキームの構築や、資源循環に関するKPIを採用したサステナビリティ・リンク・ボンドの組成などの新規性のある取組が評価された。今後、当社独自の目標・戦略の設定が期待され、銅賞となった。
環境サステナブル企業部門	アイシン	自動車業界の大きな構造転換が進む中、電気自動車（EV）向けビジネスへのシフトを進めており、体制面でも、「EV推進センター」「チーフ・カーボンニュートラル・オフィサー」職、「CN（カーボンニュートラル）推進センター」の設置など、組織横断的な取組の強化が図られており、気候変動対応への貢献を企業価値向上に接続させる動きを加速させている点が評価された。マテリアリティはKPIとの対応を重視されているが、一部重複してみえるような部分もあり、今後もう一段抽象度が上がることに期待したい。
	伊藤忠商事	商社固有のビジネスモデルが持つ事業の広がりやステークホルダーの多様性が高くサステナビリティ課題への対応が困難な中、環境課題を把握し高度の開示を行っている点、三方よしの経営理念を活かし課題に取り組んでいる点は高く評価された。今後は環境課題間の相互関係やトレードオフなどの把握・対応の取組について、より一層の開示の高度化を期待したい。
	JFEホールディングス	カーボンニュートラル（CN）の実現に向け、CO2排出削減を進めつつ、同時に、CN実現に必要となる様々な技術開発に複線的に挑戦している点が評価された。今後はCO2削減のための重要となる各種施策の実施状況をモニタリングし、PDCAサイクルを回すのにより適切なプロセス指標（先行指標）をKPIとして設定し、開示されることを期待したい。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜銅　賞＞

部門	企業名	選定理由
環境サステナブル企業部門	住友化学	事業としての重要性と社会における重要性という観点でサステナビリティへの貢献を俯瞰的に検証し中期経営計画に落としこむプロセスは非常に明快である。SSS（Sumika Sustainable Solutions）認定商品等での環境への貢献への取組やその開示も評価された。今後は重要な環境課題に関連する事業リスク・機会の財務影響を含めた開示やKPIの進捗評価等の開示の高度化に期待したい。
	積水ハウス	環境課題解決においては脱炭素にとどまらず、生物多様性保全、サーキュラーエコノミーへと、取組の幅を広げている。CEOメッセージでは、従来から課題とされていた集合住宅のネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）の普及など、再生エネルギー導入率向上に向けた意気込みが感じられ、継続的な取組が行われていると評価された。TNFD提言に沿った開示など注目に値するものもあるが、新しい取組という観点からは、より一層の環境価値創造につながる今後のイノベーションに期待したい。
	大日本印刷	経済価値と社会価値の共創を念頭に置いて、事業活動と地球環境の共生をめざし、サプライチェーン全体で環境保全の取組を推進。特に環境ビジョン2050では、めざす社会として脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の３つを掲げており、それぞれの達成に向けて中期目標、2050年目標を示した上で積極的に環境対応を図っている点が評価された。今後は事業全体での実践に関する説明等について開示の充実に期待したい。
	東急不動産ホールディングス	環境経営を長期経営方針で定めた全社方針にて、総合的に本業による環境課題解決を推進しており、自社発電事業による国内保有施設の電力の100%切り替えや、都市開発によるネイチャーポジティブへの貢献など、迅速かつユニークな実践が評価された。今後、循環型社会対応など、環境課題間の相互関連性にも留意しつつ、バランスの取れた環境対応が図られることに期待したい。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜特別賞＞

部門	企業名	選定理由
投資家部門 （アセットマネージャー）	いちよしアセットマネジメント	これまで中小型株への投資を行ってきた知見を活かし、大企業と比較してサステナビリティ関連情報が取得しづらい中小型株に対するサステナブル投資とエンゲージメントを行っている。自社の哲学の下に当分野での課題解決に貢献する姿勢が評価された。投資先の中小型・新興企業と共同で大学へ出張授業を行うなど独自性の高い取組も行っている。今後も特色を活かし、国内のESG市場の拡大に資する取組を継続されることを期待され、特別賞となった。
間接金融部門	池田泉州リース	地銀系リース会社としての特徴を活かし、自家消費型太陽光パッケージや脱炭素機器のリースを通じて中小企業の環境問題への取組を促進している。グループ全体での人材育成や、他の地銀系リースとの連携も積極的に行っており、地域・社会にポジティブな影響を与えようとする姿勢が評価された。今後、取組のさらなる規模拡大が期待され、特別賞となった。
	商工組合中央金庫	ポジティブインパクトファイナンスに積極的に取り組み、地域金融機関との連携を通じてこの分野における取組の多様化に貢献している。「調達」と「融資」を一体化した「インパクト預金」という新規性のあるスキームを構築し、環境・社会問題に貢献したい一般預金者と、そうした問題に取り組む中小企業とを繋ぎ、社会全体のサステナビリティ向上を試みる取組が評価された。今後、ガバナンス面の対応強化やネガティブインパクトのチェック項目の拡充が期待され、特別賞となった。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜特別賞＞

部門	企業名	選定理由
環境サステナブル企業部門	アンリツ	全社的な取組方針の下、サステナビリティやその一部である環境対応が堅確な体制の下で進められており、企業規模に比して統合性が高く評価された。気候変動対策・資源循環についても目標や方針を設定し、取組を進めている。スコープ3 GHG排出量のカテゴリー別開示だけでなく水資源、廃棄物等の定量データも充実させており、しっかりと対応を進めている点も評価された。今後「エコ製品」などについて成長戦略の文脈での記述強化を期待したい。
	商船三井	風力エネルギーを直接船舶の推進力に変える「ウインドチャレンジャー」の取組は、クリーンエネルギー輸送船等への搭載など応用先も広く、多様な業種のスコープ3排出量の削減への貢献も考えられ、業界やステークホルダーへのインパクトの面から期待される。また、風力活用の見通しがロードマップや投資計画の中に示され、KPIが設定されている点も評価された。今後同社ならではのさらなる特徴的な取組の進展を期待したい。
	住友金属鉱山	将来の社会に不可欠な資源循環への貢献として、使用済みリチウムイオン二次電池（LIB）に含有される銅、ニッケル、コバルト、リチウムを水平リサイクルする新プロセスの開発に成功し、さらに電池リサイクルの事業化に向けた検討を進めていることの意義やインパクトが評価された。リサイクルについては様々な取組が広がっている中で、今後同社ならではの強みを一層高める取組に期待したい。

第５回ESGファイナンス・アワード・ジャパン　受賞理由

＜テーマ別賞＞

賞名	企業名	選定理由
カーボンニュートラル賞	東京ガス	エネルギー産業としてカーボンニュートラルへの高い目標を設定し、実現すべき戦略構想を定めている。天然ガスによる低炭素化だけでなく、将来的に水素・e-methane（カーボンニュートラルメタン）の導入や、電力事業の強化によってカーボンニュートラルの実現を目指す、といったビジョンを具現化する戦略を明確に立てている点が高く評価された。
サーキュラーエコノミー賞	芙蓉総合リース	中期経営計画でPC等事務機器の返却物件に由来する廃プラスチックに関して、マテリアルもしくはケミカルリサイクルによるリサイクル率を2026年度に100%にするという非常に野心的な非財務目標を掲げており、実現に向けて資源リサイクル企業と協力し実証実験を行うなど精力的に取り組んでいる。また、確実な資源循環を行うリース商品を発売するなど、リース業ならではの立場からサーキュラーエコノミーを推進していることが高く評価された。